

# 徳川幕府オランダ留学生

米国の「黒船」来航(一八五三年)で鎖国政策の放棄を迫られた幕府は、強力な海軍をつくらうと考え、十七世紀から交流を保ってきたオランダに軍艦新造を発注した。

同時に武士階層九人、水夫・技術職六人の留学生を同国へ派遣した(一八六二年)。このグループは近代的海軍創設の基礎をつくっただけでなく、ヨーロッパの国家・社会

の各分野の科学技術水準も飛躍的な進歩をとげた。それだけに今は、何のための科学技術か、そもそも必要にたちかえって頭を冷やすこと、また他国への経済・技術協力も、相手の国民が本当に何を求めているのか、このポイントを見失わないことですよ。

◇人文科学

西 周助(周) 34

津田真一郎(真道) 34

◇医学研究

林 研海(紀) 19

伊東 玄伯(方成) 31

◇職方(航海・技術研修)

一等水夫 山下 岩吉21

水夫小頭 古川 庄八28

鍛冶(かじ)職

大川喜太郎31

鑄物師 中島 兼吉34

造船大工 上田 虎吉40

時計技術 大野弥三郎43

鈴木南の曾祖父

## 私はこう見る

### 医療の底上げ図れ

酒井シツ氏(順天堂大学医学部講師・医史学)

外国の文化を吸収するとき日

本人は昔から、まず世界最高の

ものにとびついて、消化不良を

起こすけど、すぐに回復して、

やがて自分のものにしてしま

ろ。ポンペがもたらしたのは当

時の世界最高水準にあったドイ

ツ医学の成果で、その基礎の上

に今の日本医学・医療は築かれ

たのです。おかげで日本は世界

第一級の長寿国家になったが、

患者にとって実

際の医療はピン

からキリまで落

差がひどすぎ

る。一点豪華主

義でなしに、医療の底辺をしっ

かりと引き上げてほしいわね。

### 技術本来の意味を

飯田賢一氏(東京工業大学工

世界のトップにのし上がって、

## 日本人何が変わったか

どおり、真ん中に求め(必要)

があって、それを満たす道を行

ろものだというのは。一九五

〇年代以降、日本の造船工業は

興味はまだ断片的

ヤン・デ・フリース氏(オラ

年の受講生は五十人だと聞く。

日本近代医学の恩人オランダ海軍軍医時代のポンペ・ファン・メールデルフォールト  
=長崎県立図書館所蔵

